

# 月次県内経済

## 概況 横這い圏内の動き

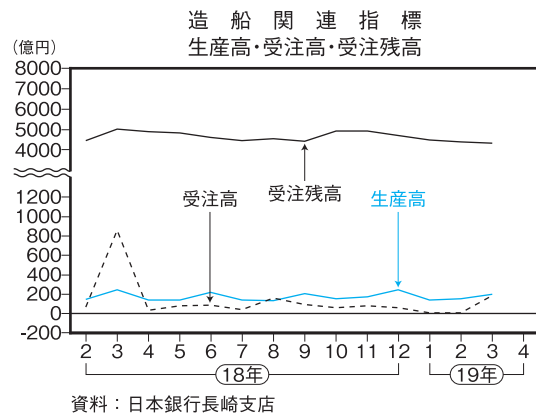
<6月>生産面では大手・中堅造船は一部で操業が弱含み、重電機械は高水準ながら操業度を引き下げており、電子部品は増勢。需要面では、公共工事請負金額は前年の反動もあり増勢一服、新設住宅着工戸数は高水準ながら減少。個人消費では、乗用車（登録車）販売台数は減少、大型小売店販売額も弱含み。観光面は、主要施設の入場者数は減少。雇用面では有効求人倍率が1.2倍台と人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。7月入り後は、生産・投資は底堅く、観光面は持ち直しの動き。

## 造船

### 一部では操業弱含みも、中小は堅調

**大手・中堅造船**では、一部の船種に新造需要回復の兆しがみられるものの、価格面での競争は引き続き厳しい模様。生産面では、受注残の減少が続くなか一部では操業度が弱含みで推移。

**地場中小造船**では、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。

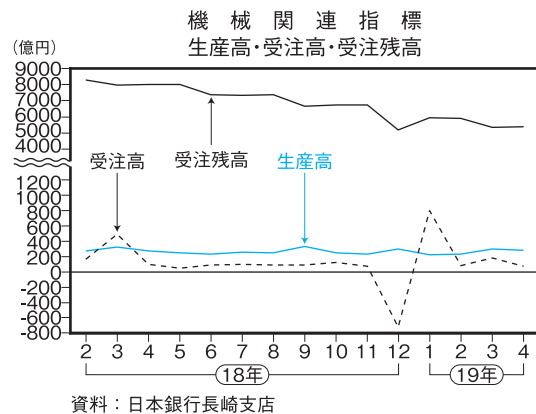


## 機械

### 重電機械は概ね生産堅調、電子部品は増勢継続

**重電機械**では、原動機（タービン、ボイラー）は、エネルギー関連を中心に受注が低水準で推移している。電動機は高めの操業を維持している。列車空調装置は高水準の受注残を維持。大型映像機器は受注残が増加。

**電子部品**では、海外との競争など厳しい環境の中、やや鈍化しつつも増勢継続。



小売商況

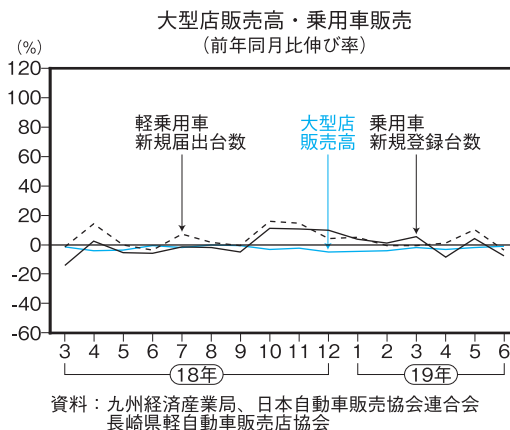
概ね横這い圏内も弱めの動き

小売商況をみると、6月の県内大型小売店販売額は、引き続き前年割れ。乗用車販売は、登録車、軽乗用車ともにマイナス。サービス消費面の旅行取扱高は前年割れ。なお、7月度の大型小売店等の売上げについても軟調推移。

6月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー36店、九州経済産業局調べ）は83億円、前年同月比1.1%減（同一店舗比較）となり19カ月連続のマイナス。長雨による天候不順が客足に響いた。品目別では、飲食料品は0.4%増となったが、衣料品は主力の婦人服等が2.2%減、紳士服・洋品が3.1%減と振るわず、全体では0.5%減。スーパー・大型店等では、インバウンド客増もあってドラッグストアの好調が続き、コンビニも堅調な売り上げが続いている。

乗用車販売では、6月の**新規登録台数**は1,760台、前年同月比7.4%減と2カ月振りのマイナス。うち普通車は4.3%減の921台、小型車が10.6%減の839台。また、軽乗用車は1,660台、3.5%減となり、3カ月振りの減少。軽を含む総販売台数では3,420台、5.6%減となり2カ月振りに前年を下回った。

サービス消費面では、6月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が前年同月比26.4%減となり、14カ月連続のマイナス。うち、国内旅行が25.2%減で12カ月連続のマイナスに対し、海外旅行は29.9%減となり5カ月振りのマイナス。

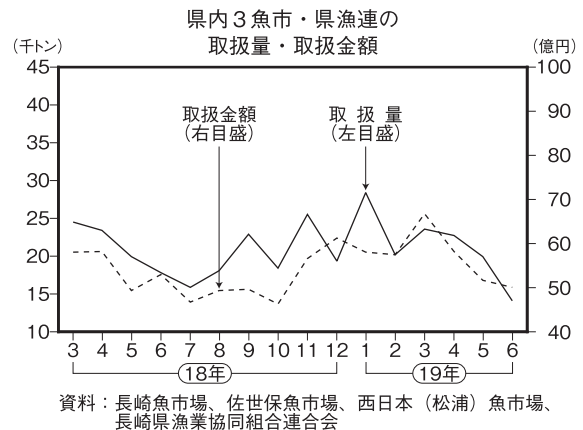


## 水産

### 取扱量、金額ともに減少

6月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況をみると、**取扱量**が1.4万トン、前年同月比20.5%減となり、**取扱金額**も50億円、同5.7%減となった。

魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比13.1%減少し、単価が43.4%上昇、金額は24.6%増加した。一方、サバも数量が同43.9%減少し、単価が28.7%上昇したものの、金額は27.9%減少した。



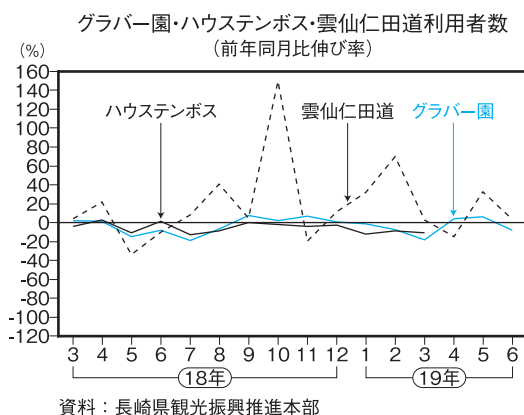
## 観光

### 主要施設の入場者数は減少

6月の県内観光をみると、5月の新天皇即位・改元に伴うゴールデンウィーク期10連休の反動もあり、主要観光施設の入場者数は減少した。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は382千人、前年同月比5.3%減少した。地区別にみると、県南地区は長崎原爆資料館（8.8%増）が増加したものの、グラバー園（7.7%減）と長崎歴史文化博物館（22.3%減）は減少した。島原半島では、島原城（7.9%増）と雲仙仁田道（3.8%増）がともに増加したものの、雲仙岳災害記念館（19.9%減）は前年同時期のリニューアル開館の反動から減少した。一方、県北地区をみると、ハウステンボスと平戸城（10.8%減）、九十九島パールシーリゾート（4.5%減）のいずれも減少した。離島地区では、昨年世界文化遺産に認定された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の好影響が続く堂崎天主堂（46.1%増）が13カ月連続増となり、一支国博物館（0.9%増）も5カ月連続して増加したものの、日韓関係の悪化から韓国人観光客が減少傾向にある対馬の万松院（6.2%減）は13カ月振りに減少した。

また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、県外資本によるホテルのリニューアルオープンが相次ぐ雲仙地区の宿泊客数が17千人、前年同月比33.9%増と10カ月連続増となる一方、小浜地区は6千人、同15.6%減少した。



公共工事

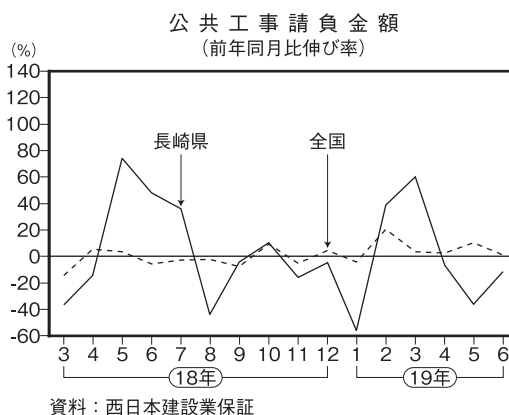
前年割れも高水準続く

6月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は385件、前年同月比2.5%減、また、**請負金額**も180億円、同11.3%減となり、前年の反動もあって3カ月連続で前年を下回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「県」（44億円、12.9%増）が前年比増加したものの、「国」（10億円、16.6%減）と「市・町」（97億円、3.2%減）は減少した。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、長崎地区（51億円、18.9%増）、県北地区（43億円、2.2倍増）、諫早地区（28億円、55.7%増）など6地区。一方、島原地区（15億円、63.2%減）、田平地区（10億円、77.7%減）など4地区では前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、佐世保市発注の佐世保市市立学校空調設備整備事業（29億円）、西日本高速道路（株）九州支社発注の長崎自動車道長崎トンネル工事（19億円）など。



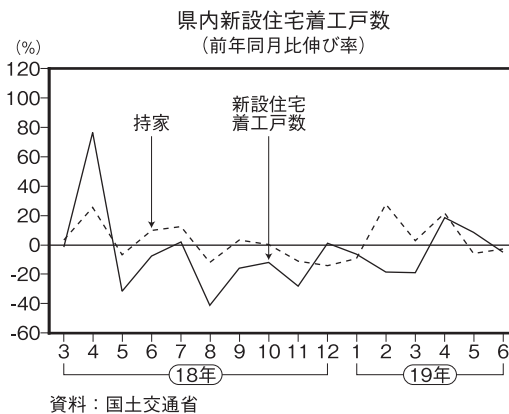
住宅建設

前年同月比小幅減、前月比横這い

6月の**新設住宅着工戸数**は531戸で前年同月（560戸）比5.2%減、前月（534戸）比ではほぼ横這いとなった。

主な利用区分別にみると、持家（257戸、前年同月比3.0%減）が前年比微減、貸家（189戸、26.5%減）は減少、分譲（83戸<うちマンション42戸>、2.7倍増）は大幅増加となった。

主な市郡別（県建築課調べ）では、前年を上回ったのは長崎市（178戸、71.2%増）、東彼杵郡（52戸、7.4倍増）など9市郡、下回ったのは佐世保市（67戸、44.6%減）、諫早市（56戸、50.4%減）、大村市（56戸、54.5%減）などの7市郡。



## 雇用

### 緩やかな改善傾向続く

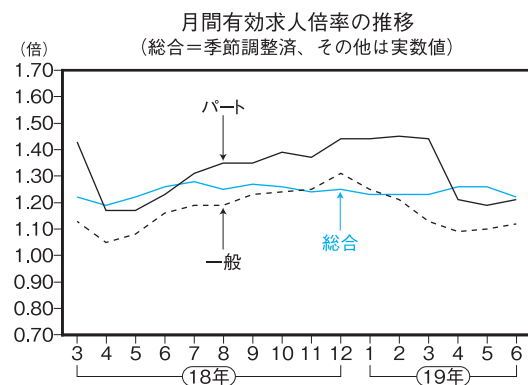
6月の県内の有効求人倍率（季節調整済）は1.22倍と、前月を0.04ポイント下回った。また、全国の有効求人倍率については、前月を0.01ポイント下回る1.61倍となった。

新規求人数は10.1千人、前年同月比6.7%減となり8カ月連続の減少となった。形態別では、一般求人が5.1%減と2カ月連続の減少、パート求人は8.8%減と4カ月連続の減少。主な業種別にみると、建設業（13.6%増）と医療・福祉（1.6%増）は増加したが、製造業（28.8%減）や運輸業（20.9%減）、飲食店・宿泊業（14.4%減）など多くの業種で前年を下回った。一方、新規求職者数は5.5千人、前年同月比0.6%増となり5カ月振りの増加。形態別では、一般求職者が3.2%増、パート求職者は3.3%減であった。

また、有効求人数は27.8千人、前年同月比2.0%減となり2カ月連続のマイナス、一方、有効求職者数は24.0千人、1.0%増と4カ月振りに前年を上回った。

就職件数は2.3千件となり前年同月比9.5%減。また、雇用保険受給者実人員は5.1千人、前年同月比5.2%増となった。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



資料：長崎労働局

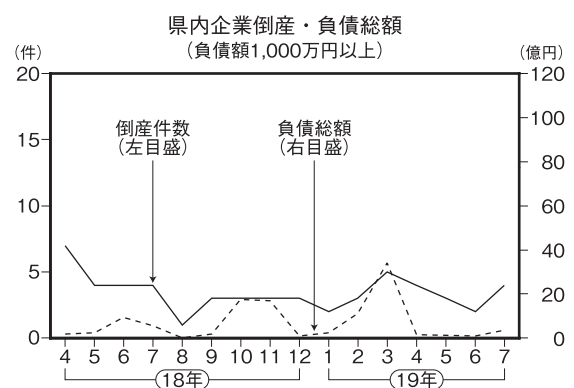
## 企業倒産

### 低水準が続く

7月の県内の企業倒産件数（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月と同数の4件となり、14年11月以降、4年8カ月にわたり一桁台が続いている。

一方、負債総額は、前年同月比2.2億円減の3.7億円となった。

倒産を業種別にみると、サービス業が3件、建設業が1件。また、その原因は全て「販売不振」。



資料：東京商工リサーチ